

## 地層の区分

秋津4・5丁目地域の地盤構成は、上部より、盛土埋土層(B)、沖積粘性土層(Ac1)もしくは沖積砂質土層(As1)、洪積砂質土層(Ds1)で構成され、ほぼ水平に体積しています。

最上部の埋土・盛土層(B)は、砂質土および火山灰質粘性土、粘土、シルト碎石と多種で構成され、地域全体を覆っており、沖積砂質土層(As1)と沖積粘性土層(Ac1)は、互層状になっています。

表-1 土質層序表

時代		土質名	土質	記号	特徴
第四紀	完新世	盛土・埋土	砂質土	B	砂質土及びローム、粘土、シルト、碎石からなる
		沖積粘性土層	砂混じりシルト 砂質シルト	Ac1	シルトからなる 全体に粒径の細かい砂を混入する
		沖積砂質土層	細砂 シルト質細砂	As1	粒径が細かく均一な砂を主体とし、少量の貝殻片を混入する
	更新世	洪積砂質土層	細砂 微細砂	Ds1	粒径が細かく均一な砂からなる

## 各地層の特徴

### ・盛土・埋土層 (B)

盛土層は、砂およびローム、粘土、碎石など多種からなります。

埋土層は、シルトを主体としています。

### ・沖積粘性土層 (Ac1)

沖積粘性土層はシルトを主体し全体に砂分を混入します。

砂分の混入量は増減し、全体に上部で多く下部で少なくなっています。

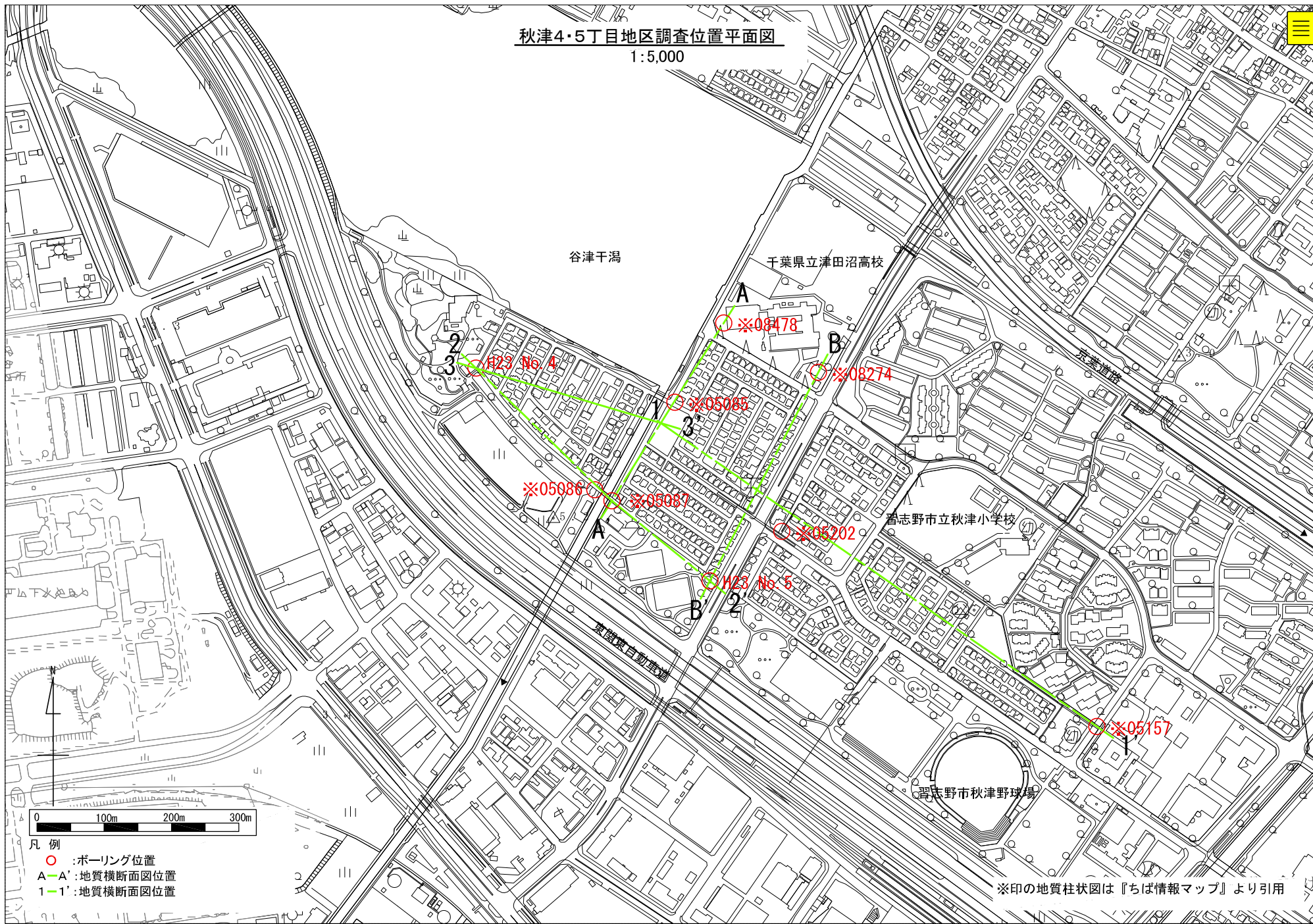
### ・沖積砂質土層 (As1)

沖積砂質土層の上部は、粒径が非常に細かく、ほぼ均一な砂を主体としています。全体にシルト分および少量の貝殻片を混入し、下部では、シルト分の混入量が少なくなり、一部で少量の有機物を混入しています。

### ・洪積砂質土層 (Ds1)

洪積砂質土層は粒径の細かい均一な砂からなっており、一部酸化色を示しています。

秋津4・5丁目地区調査位置平面図  
1:5,000

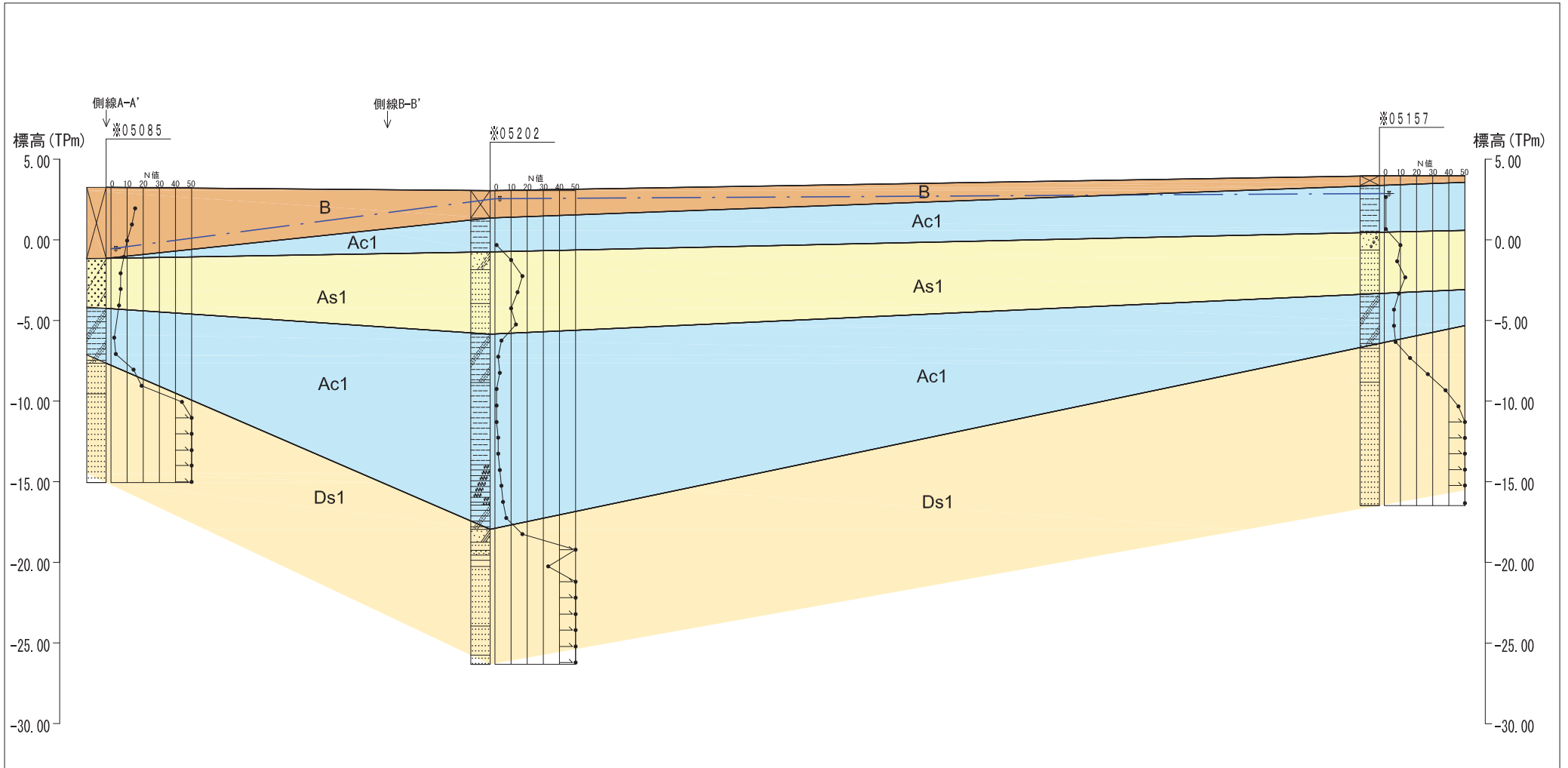


※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

(西側) 1 ←

想定土質断面図 (測線1-1')  
縦1/250 横1/2,500

→ 1' (東側)

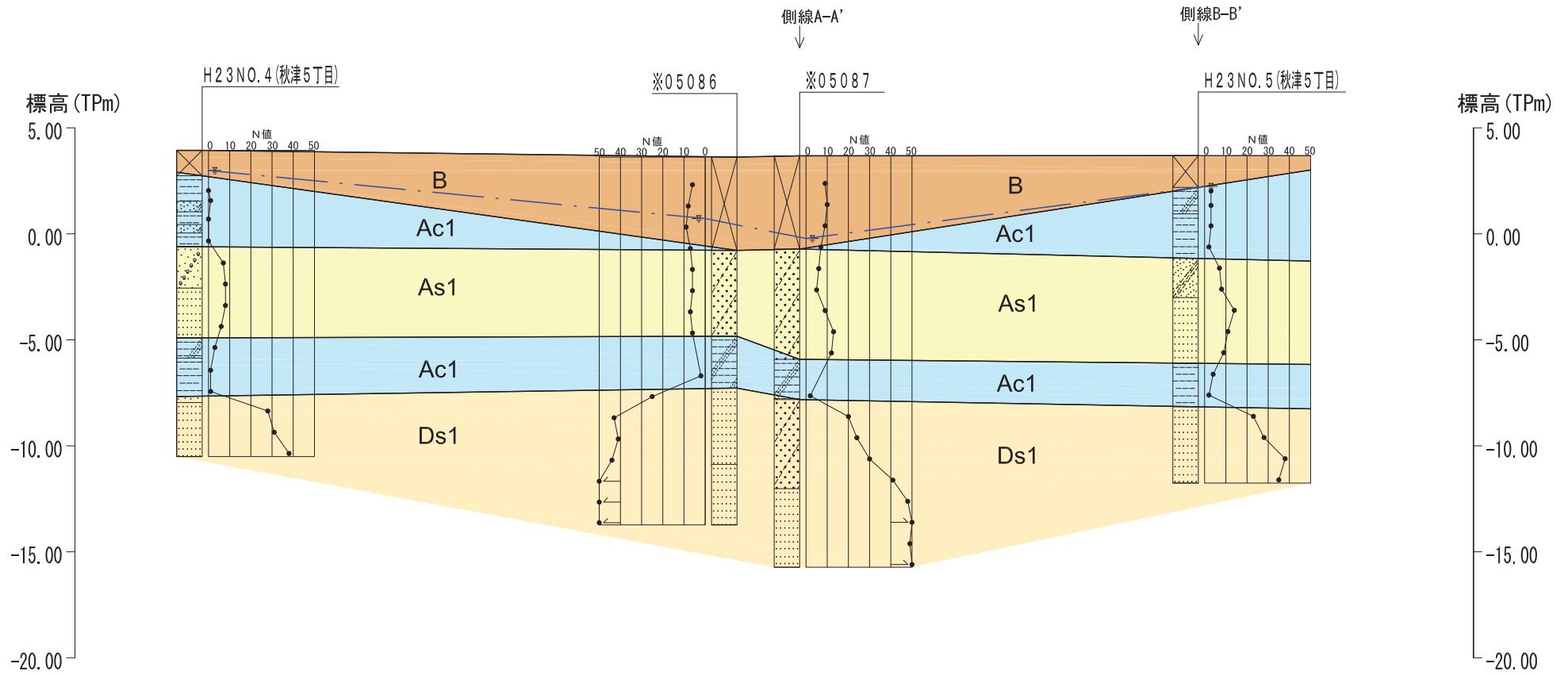


※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

(西側) 2 ←

想定土質断面図 (測線2-2')  
縦1/200 横1/2,000

→ 2' (東側)

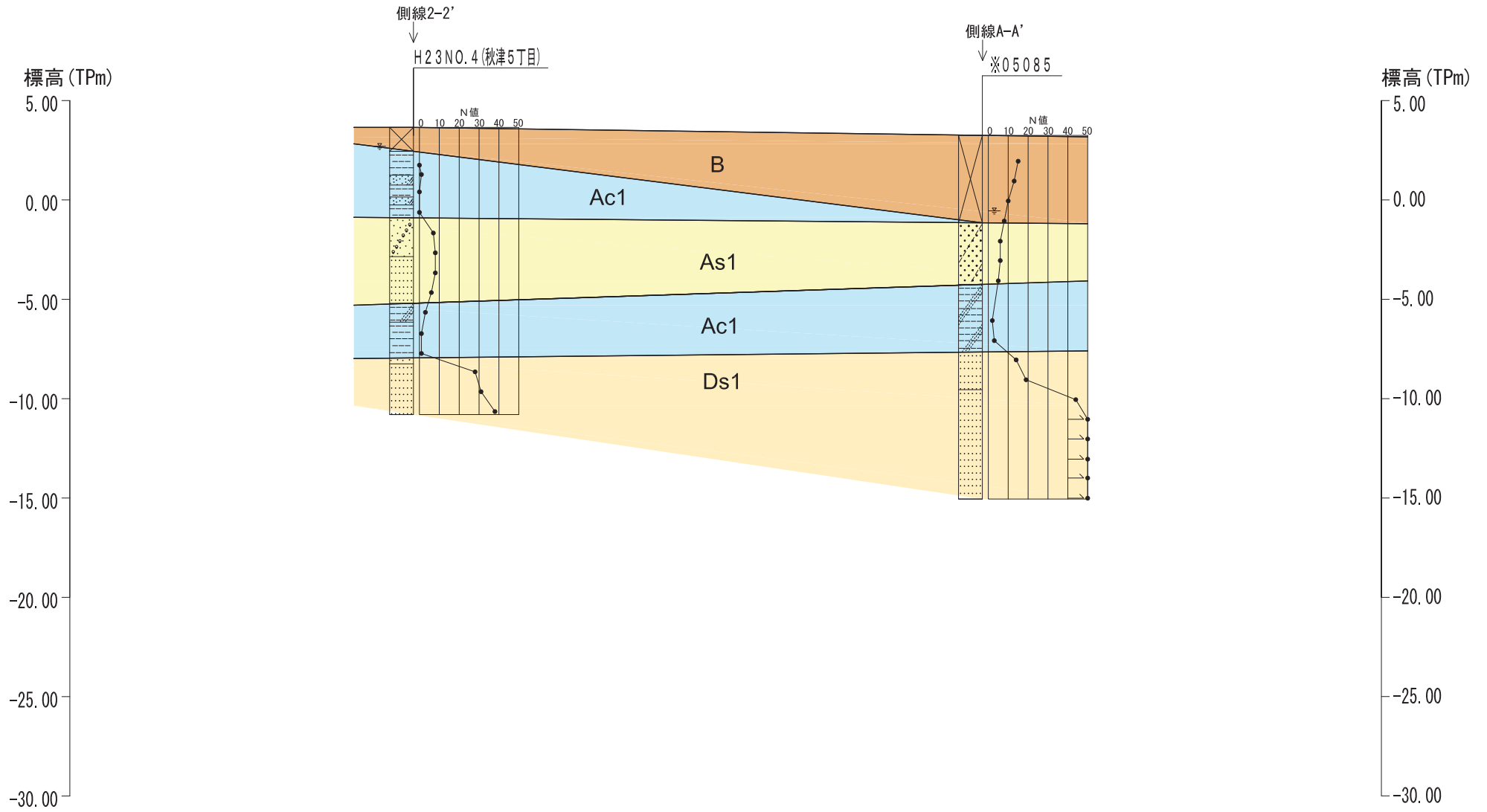


※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

(西側) 3 ←

想定土質断面図 (測線3-3')  
縦1/200 横1/2,000

→ 3' (東側)



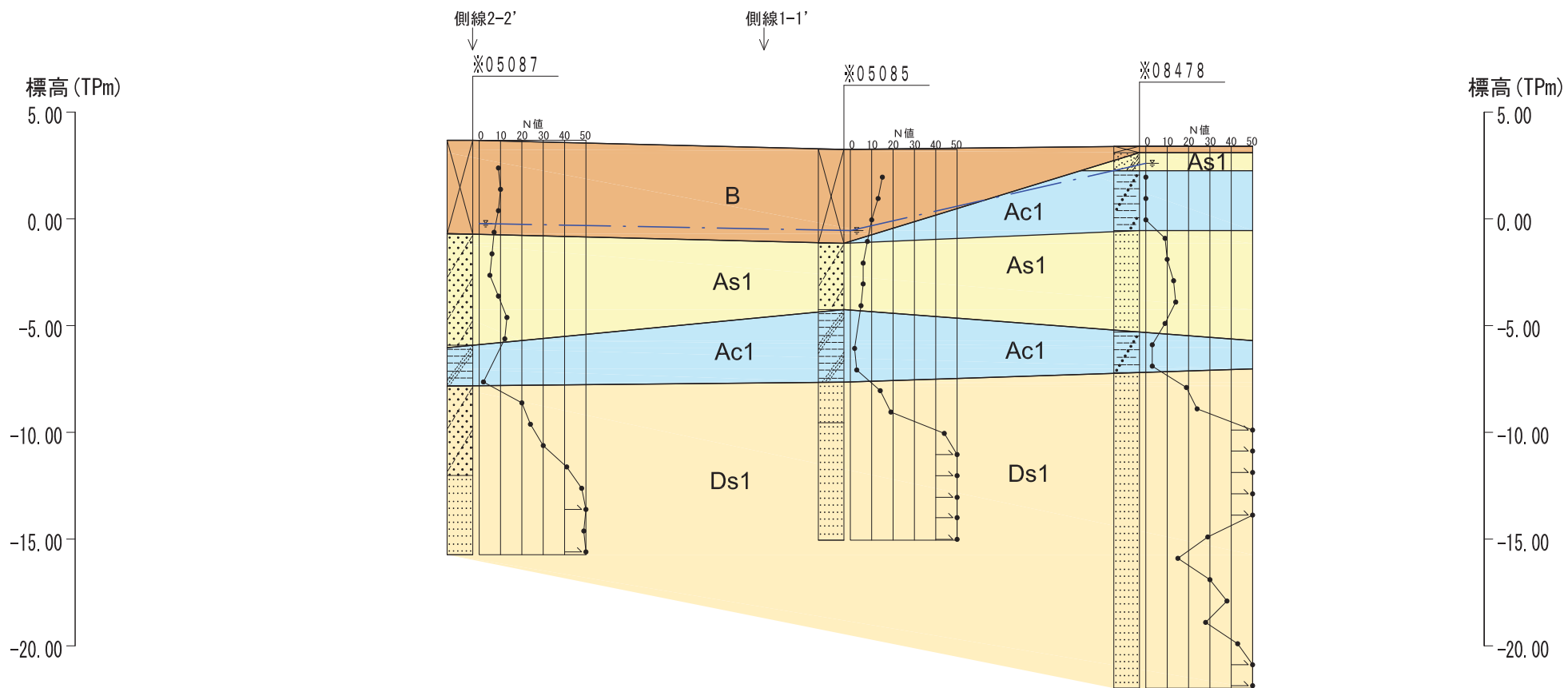
※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

想定土質断面図 (測線A-A')

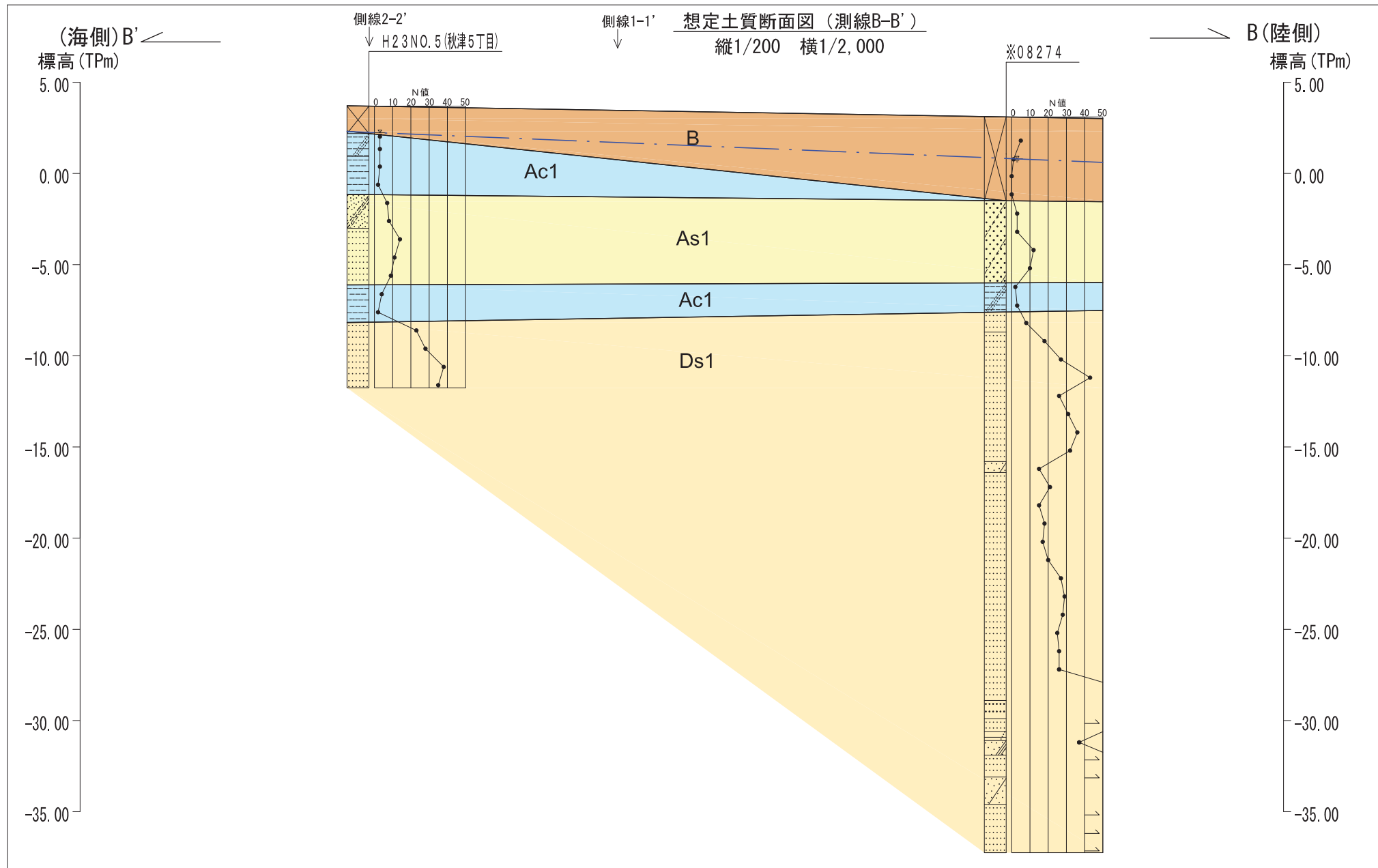
縦1/200 横1/2,000

(海側) A' ←

→ A (陸側)



※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用



※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用